

＜参考資料＞拡大・進化する虎ノ門ヒルズエリア

一体的な都市づくりで「国際新都心・グローバルビジネスセンター」を形成

「虎ノ門ヒルズ 森タワー(2014年竣工)」、「虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー(2020年竣工)」、「虎ノ門ヒルズ レジデンシャルタワー(2022年竣工)」に加えて、虎ノ門一・二丁目地区が加わることで、虎ノ門ヒルズエリアは、区域面積約7.5ha、延床面積約80万㎡に拡大。交通インフラとも一体化した複合都市となり、六本木ヒルズに匹敵するインパクトを与える真の国際新都心へと進歩します。



	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー	●7月 都市計画決定	●1月 再開発組合設立	●2月 着工			●1月 竣工			
虎ノ門ヒルズ レジデンシャルタワー		●9月 都市計画決定	●3月 着工					●1月 竣工	
虎ノ門ヒルズ ステーションタワー				●3月 都市計画決定	●11月 再開発組合設立	●11月 着工			●7月 竣工予定
虎ノ門ヒルズ駅						●6月 開業			

「東京の玄関口」となる新たな交通結節点としての虎ノ門ヒルズエリア

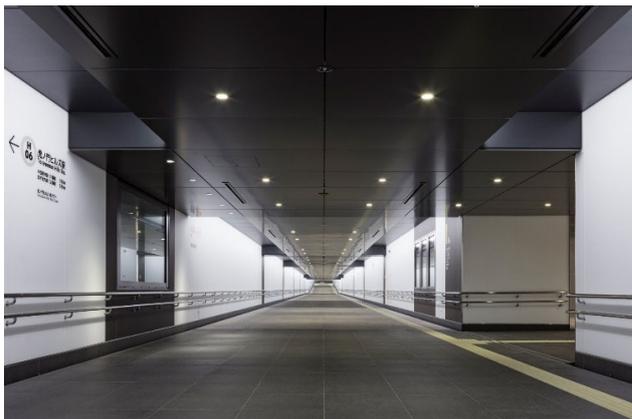
「虎ノ門ヒルズ ステーションタワー(A-1 街区)」は、東京メトロ日比谷線「虎ノ門ヒルズ」駅と一体的に開発することで、賑わいあふれる開放的な駅広場を創出し、桜田通り上には虎ノ門ヒルズ 森タワーのオーバル広場へと接続する歩行者デッキを整備。地上・地下の重層的な交通ネットワークを強化・拡充することにより、虎ノ門ヒルズエリアの交通結節機能を大幅に強化すると共に、エリアの回遊性の向上を通じて賑わいの創出に貢献します。

「虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー」の 1 階には、日比谷線「虎ノ門ヒルズ駅」や銀座線「虎ノ門駅」に直結する約 1,000 m² のバスターミナルがあり、空港リムジンバスや都心と臨海部を結ぶ東京 BRT(高速バス輸送システム)が発着。さらに、環状第 2 号線が全面開通すれば、羽田空港へのアクセスも大幅に向上します。

環状第 2 号線とともに誕生した「新虎通り」を含め、エリア全体をつなぐ歩行者ネットワークと、新たな人の流れを創出し、「虎ノ門ヒルズエリア」は、世界と都心部を繋ぐ新たな「東京の玄関口」として機能します。



虎ノ門ヒルズ ビジネスタワーと
虎ノ門ヒルズ 森タワーをつなぐ歩行者デッキ



地下歩行者通路

虎ノ門ヒルズエリアをつなぎ、生物多様性を実現する緑

2014 年に竣工した「虎ノ門ヒルズ 森タワー」では、約 6,000 m² の大規模オープンスペースを確保。屋上庭園「オーバル広場」や階段状のテラス「ステップガーデン」などの豊かな緑地空間に加えて、生物多様性に配慮した緑や小川も創出。JHEP 認証(公益財団法人日本生態系協会運営)で最高ランク「AAA」を取得し、オフィスワーカーや地域の方を対象にしたヨガイベント等のコミュニティ形成活動の場としても活用されています。2020 年に竣工した「虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー」内には、約 1,200 m² の緑豊かな西桜公園が整備され、さらに 2022 年の「虎ノ門ヒルズ レジデンシャルタワー」の完成により、エリアの低層部の緑が連続し、また隣接する愛宕山や愛宕グリーンヒルズの緑とも緑道でつながり、エリアとエリアをつなぐ新たなグリーンネットワークが創出されています。

また、「虎ノ門ヒルズエリア」全体としては、米国グリーンビルディング協会(USGBC)による国際環境性能認証制度「LEED(Leadership in Energy & Environmental Design)」のエリア開発を対象とした「ND(Neighborhood Development)」カテゴリーにおいて、最高ランクのプラチナ予備認証を取得しています。



虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー 外構



虎ノ門ヒルズ 森タワー オーバル広場



虎ノ門ヒルズ レジデンシャルタワー 外構